

B 比爪館跡と周辺の文化

大荘厳寺跡

B⑥ 大荘厳寺を探る

大荘厳寺は、樋爪氏の没落後も比爪館のあった箱清水地区に存続したが、その詳細は定かではない。大荘厳寺は、近世初頭の盛岡城下の建設にあたって、城下外加賀野に移転し、明治期初頭の一連の神仏分離政策で廃寺になった。

鎌倉時代から室町時代にかけて、志波郡には大きな寺が 5 つあった。高水寺・新山寺・本誓寺・源勝寺・大荘厳寺である。盛岡藩は、築城と並行的に盛岡城下の整備をすすめ、その町割は現在の都市盛岡の骨格になっている。新開地であった城下町盛岡は、都市基盤の整備や宗教統制のため、寺院を城下に移転する政策をすすめた。旧城下三戸郡や新領地として編入された志和郡などに所在する古刹といわれた寺院が、盛岡城下への移転を余儀なくされた。

盛岡城下では、城下入口（寺の下寺院群）や城下遠曲輪の外縁部（北山寺院群）に集団的・連担的に集積された。この寺院の計画的な配置は、集団的・散在的の違いはあるが、城下防衛のために寺院のもつ軍事的意義を重視し、城下の通路の要所や外縁部に配置されたと理解されている。しかし、この軍事的な意義のほかに、寺院が藩権力の下に屈服・服従したことの現れとか、緑地景観の維持、寺院敷地内における公共墓地の確保などを目的にしたとする学際的な考え方が示されている。

当地域では、大荘厳寺をはじめ、高水寺・本誓寺・広福寺・源勝寺・新山寺の六か寺が移転している。これらは、いずれも志波郡きっての古刹・名刹といわれた寺院である。これらの寺院移転は、地域にとっては大きな損失であったが、移転後の損失を補充するように、勝源院など多くの寺院が相次いで建立されるに至った。

志波郡の古刹を盛岡城下に移転した背景の一つとして、次のような事情が考えられる。天正 16 年（1588）、斯波氏を滅亡させた南部信直は、新領地として編入した志波郡の民生の安定と治安の確立を図るため、斯波氏の家臣の仕置きについては、南部氏に加担した者を優遇するとともに、土地の事情に通じている投降者に対しても本領を安堵するという寛大な処置を行い、盛岡城下に集住させた。その上で斯波氏の家臣や旧領主斯波氏との結びつきが強かった寺院を城下に移転させることで信仰感情や民心の安定を図る必要があった。

大荘厳寺の移転時期については、大半の寺院が二代藩主利直・三代寺藩主重直の時代に移転していることから、慶長・寛永年間（1596～1644）頃と推測される。

大荘厳寺は、鎮守社である五郎沼薬師堂の別当を兼ね、山号を南池山と称していた。南池山は、大荘厳寺の南に五郎沼があることからの山号だろうか。

樋爪氏が庇護したとされる新山寺には、周辺に 18 の坊舎があったとの伝承がある。大莊嚴寺が創建された際、新山寺と同様に附属の寺院、宗徒および行者と呼ばれる僧侶の坊舎を多数構えたと思定される。

比爪館跡の周辺には、東ノ坊・下東ノ坊・中ノ坊・大日坊などの地名や屋号があり、大莊嚴寺に附属した坊舎に由来する名称と推測される。また、南日詰京田・桜町字才土地・平沢字油田・片寄字寺田・北日詰新行坊・北日詰字大日堂・日詰字牡丹野・北日詰字牡丹野などの地名は、寺院・仏堂・仏に由来するものと考えられる。

南日詰の京田（経田）は、油田（燈油田）と同じく永代供養のため寺院に寄進した田地と考えられる。燈油田については、『吾妻鏡』は、「両国陸奥・出羽に一万余の村有り。村毎に伽藍を建て、仏性燈油田を寄附する」（文治 5 年 9 月 23 日条）と記されている。また、日詰・北日詰・稲藤の牡丹野という地名は、寺院が薬草としてボタンを栽培した薬草園の名残りと考えられる。

比爪館跡の発掘調査は、区画内の北西部を中心に行われてきた。近年では、岩手県立博物館が平成 25 年度から「前平泉文化関連遺跡調査事業」や同館考古部門の「平泉文化の研究」に基づく比爪館跡測量調査が実施された。

比爪館跡の南西部の調査では、100m 四方の池の痕跡とその西側に楕円形状の中島状の微高地が確認されている。その規模・形状は、平泉の無量光院と同規模の阿弥陀堂を配した浄土庭園が想定できるという。さらに、西側の土塁状の高まりの規模・形状は、無量光院の金堂が建つ西島に酷似しているという。これらから、比爪館跡区画の南西部が大莊嚴寺の寺域の中心と考えられ、さらにその形態は、池泉を強調する苑池に中島を擁した浄土庭園をもつ阿弥陀堂と推測されている（『岩手県立博物館調査研究報告書』第 33 冊）。

測量調査の結果から、比爪館跡南西部に大莊嚴寺が建立され、その規模や形状は、平泉の無量光院と同規模の阿弥陀堂を配した浄土庭園の存在が想定されるということである。大莊嚴寺は、比爪館を構成する宗教施設として、居館とともに造営された樋爪氏の御願寺的な寺院として建立されたとするには、発掘調査による寺域の確定や苑池の存在を検証する必要がある。莊嚴は「仏像・寺院を飾る」ことを意味するが、大莊嚴寺はその名称のとおり、池泉をともなう浄土庭園内に莊嚴化された寺院として建立された可能性が高い。